
君が僕であなが私

コルっち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

•	?	?
?	°	*
?	•	*
°	*	•
	•	?
	?	°
	°	?
	•	°
	?	•
	?	*
	°	•
	*	?
	°	°
	•	•
	?	?
	*	?
	*	°
	•	*
	?	°
	°	•
	°	°
	?	?
	°	*
	•	*
	*	•
	•	?
	?	°
	°	°

ブローグ

もともとPC版のMMOの中でとても人気だったソフトが今回、VR用に仕様の改良版が発売されてその初回ロットの三万本のうちのひとつをで予約をし、一年以上首を長くして待ちいざ買えたと思いVMMMOをやってみると、単なる開発者の遊びで作った仕様がバグのせいらしく、クリアするまで終了出来ないしゲーム内で死んだり接続を外されたらリアルという名の現実で死ぬとかいうこのラノベだよ仕様になったり…

唐突だけど…

他人の体つてもものすごく使いづらい…

しかも、その体が異性のものだったら余計にだ…

そして一度くらいは他人の体になってみたいなんて思っている男子諸君もこれを読めばすごい苦勞する事をわかってもらえるだろう。なぜならゲーム内でふとした事故によりキャラが入れ替わってしまったからだ…

まあ、そんな例は俺らしいない特殊な例らしいが…

とかいっちゃてどうなるかは気分次第です…

もしかしたら、VMMMOではないおはなしになるかも？

プロローグ（後書き）

?? * . ? * * ? . ? . * ? . ? ? * .
? * * ? . ? . * * ? . ? ? * . ?

二作目ですが・・・更新は不定期です。

ちなみに、あんまりオンラインのPCゲーはしません・・・
それなのに書こうとか・・・

うまく書けるかどうかわかりませんがよろしくお願いします。
?? * . ? * * ? . ? . * ? . ? ? * .
? * * ? . ? . * * ? . ? ? * . ?

1話

この世界はともつまらなくそして自分はいろいろとツイてない！
だが、この時はただでさえツイてないのにも関わらず本当にツイて
ない体になるとは思ってもいなかった…

「よお、雅輝！お前、何時にも増してなんか暗いな…なんかあった
のか？」

「ああ、なんだ…浩介か…いやあ、昨日は日直だったじゃん。」

「あつ！昨日の浮島にけられたやつ？」

「うん…」

浮島と言うのはあだ名、自分のクラスの担任で本名を鈴村紀夫とい
うのだが外見は、ケツアゴで頭がてっぺんを中心に禿げてるけど前
髪のがりかなんか知らないが頭に黒い浮島があり、最近なにを思
ったのかしらないが無造作にヒゲを伸ばし始めた先生なのである。
なんか髪にすごい未練がありますって感じだからいつそ、坊主にす
ればいいのに…

まあ、そんな事はおいといて、その先生は英語の担当なのだが、昨
日は授業が始まる時に入ってきた時に機嫌が悪かったのと、たまた
ま日直で黒板を消したのだが、一部、薄くチョークがのこり白くな
っていたのと、教壇に黒板消しが落ちた後があり、そのせいで

「日直！ちゃんと黒板キレイにしろよ！教壇はモップで今すぐふけ
！」

と怒鳴りながら、いきなりローキックをしてきたのだ。

いやいや、いくら機嫌悪い＋僕の事が嫌いだからとはいえ、ねえ…
そこそこ普通の蹴りだったんで地味に痛かったのと周りからのああ
かわいそうにみたいな視線がともイタかった…

蹴られた後モップを濡らして教壇拭いて…

やっと授業が始まりました！みたいな…

「二度ある事は三度あるっていうじゃん！なんか今日嫌な予感する
んだよね…」

蹴られたのが二度目で一度目というのが前々回の授業で単語の小テ
ストの時にその先生に字が汚く名前が読めないといきなり頭を叩か
れ単語が抜け落ちてしまい、点数が悪かったのだ…ツイてない…

「うーん、まあ気にすんなよ！ほらっ、はやく行こうぜ！」

「まあ、気にしても仕方ないよねー今日は、なんも無ければいいな
…」

1話（後書き）

* * : * : * :
: * . . . * * : .
° . . . *

1話目やつと投稿です。忙しいんで次回の投稿は用事が終わり次第
かな？

よろしくお願いします〜

* * : * : * :
: * . . . * * : .
° . . . *

2話

おっと…

ちよつと嫌な事を思い出していたら自己紹介が遅くなってしまった

…

僕の名前は南の城で雅に輝くと書いて南城なんじょう 雅輝みやきと読むのだが、

バカにされたりするときは、ガキとか言われるのがちよつと難点かなあ…

でも、昔からあんまり変わってないよねとか言われるから仕方ないのか？

うーん、身長はクラスで4分の3番目というなんとも言えない高さで、

自分的には顔は中の上ぐらい（だったらいいなあ…）

それと声が少し高いのと性格が残念だからしゃべらない方がいいのにとよく言われる…

あつもちろん、彼女いない歴〓年齢〓高校2年の16才ですけど…

べべっ、別に画面の向こうというよりむしろ脳内に彼女いるから悔しくも悲しくもないんだからね！

うん、目を瞑ればいつでも会える。 脳内彼女の獣人の美海さんのその猫耳はいつも通りかわいいよ！

ああ、美海にゃんマジにゃんこ！ほらね！

よくし、美海にゃん分補充完了！今日も頑張るとしますかあゝ！

さつき朝に声を掛けてきたのが、浅沼浩介あさぬま こうすけといって

高1高2と同じクラスでたしか…5月生まれだから17才のハズ！

でもすごい熟女好き…

だって、この前の登校中にこのロリコンとかふざけて言ったら…
ん？ロリコンだと…ふざけんじゃねえ！俺は熟女好きなんだよ！
35才以上お断りだ！

と学校へ着いて教室につくまで語られた…

いやあ、あいつの性癖なんて聞いた所で±0所かむしろ…だったんでそれからロリコンとかそういう系の文句はいくら悪ふざけでも
言わないように気をつけている…

だから、こいつけっこうかっこいいと思うのに彼女いないのか…

な〜んて考えてる4時間目…

3話

いきなりすぎるけど腹というより胃が痛い…

今までの中でも一番痛い…

胃が痛くなったのは初めてだわ…

いや、わりとマジで！

うーん、朝食はいつもより少なめだったけど昼休みに宿題やってたせいで昼飯食わなかったせいかな？ ああ、しかもよりによって、

浮島の英語の授業…

あんまりうけたくないけど残り30分やし…

でも、授業のスピード少しはよいから聞かないとわかんないんだよね…

困ったな…

まあ、仕方ない、机の上に上半身を預けてノートとるとするか…

うん、少し楽になった！

だが、5分ぐらいすると…

「おいっ、南城！くねくねするな！」

とさっそく浮島に怒鳴られた…

いやいや、くねくねするなってどういう事だ！

ちよっと上半身を机に預けてノート取ってるだけだぞ…と思いつつも、姿勢を直さなかったら余計に怒られんで、仕方なく姿勢を直した。

しかし、ものの5分もすると、さっきの姿勢のおかげで痛みが弱まった反動のせいなのかいつ胃が、

痛い痛い痛いイタイイタイイタイ！

って訳であまりにも痛いので、胃の辺りを押さえて下を見て耐えていたら…

バゴツ！

ツ…

ちょく頭いてえく！

えつ、ちょつ、んぬ、何があつた？

顔を上げてみるとそこには浮島が教科書を持って立っていた。どうやら教科書の背表紙で殴られたらしい。

この英語の教科書はよくあるライトノベルとかと同じぐらいの太さなのだが背表紙がしっかりしていて結構、丈夫にできているのだ。

「おいつ、南城！どうして今、辞書開いてないんだ？

俺は、辞書開けていったらどろ？開いてないってことは、お前、寝てただろ？

ほらつ、本当の事いつてみる！」

と睨まれながら言われたが、

ん？殴られて頭が痛いせいか、頭に意識がいき胃があまり痛くないだろ？

先生殴ってくれてありがとくう！胃の痛みが楽になったよ！

いやいやまだどつちもいてえよ！つか痛い場所増えたじゃねえか…

バカやるうなんてすっげえ下らない事を考えながら…

「いや、寝てないっすよ。胃」

バゴッン！

「おいっ、嘘をつくな！じゃあ、だったらなんで辞書開いてないんだ。言い訳なんかするな！」

ツ… 頭が真っ白になった。

いてえ！ちよっ、さっきよりもいてえ！

いや、まだ続きのセリフがあったのに…

ってか最後まで人の話し聞けっの教師だろ…

それより、教科書を上から大きく振りかぶってフルスイングで重力で攻撃力を増させながら叩きつけるってどういう事ですか？

しかもさっき叩いた所と同じ箇所に寸分変わらずに今回は教科書の角で！

と頭を押さえてみると…

ぬぬぬ？あれっ、だんだん腫れてきた…

って事はだよ…この殴られた箇所はたんこぶになってきてるって事

じゃん…

あーあ…どうしよう…

頭を押さえながら前を見るとちょうど浮島が教壇に戻る所だったが、何故かいきなり後ろを振り向くと、

ニヤリw

ぶっ、ザマアwww

とでもいいいたげなとてもム力つく笑顔を向けてきた…
うっわ… 本当ム力つくわ…

その後、浮島には何も言われず無事じゃないけど…
胃の痛みと頭のたんこぶの痛みをこらえてたらやつと4時間目の浮
島の授業が終わった…

ああ、嫌な予感で当たるんだな…

2度ある事は3度あるんだ…

あゝあ…本当、ツイてない…

4話

浮島の授業が終わって休み時間に昼飯を食べたら無事に腹の痛みが治まったのはいいが・・・

5時間目も頭のたんこぶが痛かったので5時間の休み時間に保健室に行ったりしたけど、

6時間目は何事もなく？（頭のたんこぶに氷嚢をのせてたから視線がイタかったが…）

過ごせ放課後にやっと学校が終わったあゝと伸びをしていると、
浩介が、

「まあ、あれはツイてなかったな。まあ、ドンマイ！って訳で今日も途中まで一緒に帰ろうぜ？」

と笑われながら言われた…

いやいや、ふざけんなよ！まだ、マジで痛いんだから…

ああ、明日には治ってればいいなあ等と思いながら、

「ああ、いいよ」

まっ、彼女がいない男どうして、用事がなければだいたいいつも一緒に帰ってるけどな！

「朝、お前がテンション低すぎたせいで言えなかったんだけど…」

「おっと、何さ？ってかまだ頭痛いからテンション低いけどな！」

「うーん、どうしようかな？やっぱり言つのやめようかな？」

「ちよっ…おいおい、焦らすなって！」

「仕方ない…まあ、テンションが低くてかわいそうなお前に、これをやろう。」

「といって、USBを渡された。」

「どれどれ？」

ふむふむ、よくよくみると4Gと書いてあった。

「このUSBが4ギガってことは…PC用のギャルゲーそれともまさかのerrg？」

「まあ、ゲームってのはあっているが、家帰って中身を見ればわかる。」

多分、内容は明日に新聞とかに載ると思うけど…まあ、1日先取りしたスクープだから！」

「えっ？」

「おっと、じゃあ、ここの曲がり角でお別れだな。じゃあな〜！」

「おいおい、だからこの中身はなんなんだよ〜！ってかこのUSB見たら返した方がいい感じ？」

「そのUSBはあげるわ〜 まっ、見てのお楽しみってやつで！」

「あ〜もう！マジっすか…！」

アイツは、教えないって言うたら教えてくれた試しがない…

仕方ない、家帰ってからPCを立ち上げるとするかあ〜！
ってか…家までばっちな…

4話（後書き）

ゴタゴタしておそくなりました・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7186y/>

君が僕であなが私

2011年12月21日19時56分発行